

「COVID-19 禍前・中での認知機能障害患者に対する 精神神経科介入の実態変容に関する調査」 について

加古川中央市民病院精神神経科では、入院された患者さんに対して下記の研究を行っております。
尚、この研究についてご質問がございましたら、最後に記しております【問い合わせ窓口】まで連絡ください。

【研究概要及び利用目的】

COVID-19 に罹患すると精神神経疾患が高頻度に合併するといわれている。また、アルツハイマー型認知症との関連を示す報告もあります。COVID-19 を知る上で、せん妄をはじめとする精神神経疾患の対応は重要と考えています。

今回、COVID-19 禍前と COVID-19 禍中にリエゾンチームおよび認知症ケアチームが介入した認知機能障害患者さんの実態変容について調査します。COVID-19 禍に何に重点を置いて診察すべきかを確認します。

【研究対象者及び研究対象期間】

2018年4月1日から2022年3月31日の間に加古川中央市民病院において入院し、主治医からの依頼で精神神経科が介入した患者さん

【取り扱うデータおよび試料・情報の項目】

診療録より、下記の情報を取得いたします。

- 年齢、性別、過去の既往症、合併症、転帰
- せん妄のサブタイプ、重症度、ICU 入室の有無、挿管率
- 処方薬剤（投与量、投与期間など）
- 臨床検査値
- CT 等の画像 等

【研究期間】

病院長承認日 ~ 2025年3月31日

【個人情報保護の方法】

研究データは、患者さんを直接特定できる情報（お名前やカルテ番号など）を削除して匿名化しますので、当院のスタッフ以外が患者さんを特定することはできません。この研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、その場合でも上記のとおり匿名化していますので、患者さんのプライバシーは守られます。なお、この研究は、国の定めた指針に従い、当院の研究倫理審査委員会の審査・承認を得て実施しています。

【試料・情報等の保存・管理責任者】

加古川中央市民病院 精神神経科 大谷 恭平

【データおよび試料提供による利益・不利益】

利益：通常診療の情報を用いているので、データをご提供いただいた患者さんの個人には特に利益になるようなことはありません。

不利益：特に不利益はありません。

[登録終了後のデータおよび試薬の取り扱い]

研究終了後も少なくとも本研究の終了報告日から5年を経過した日または本研究の結果の最終の公表について報告された日から3年を経過したいずれか遅い日までの期間、当院内の鍵のかかる保管で管理します。患者さん及びその家族等から参加拒否または同意撤回があった場合には、その患者さんに関するデータはすみやかに廃棄します。

[研究成果の公表]

研究成果は学術目的のための論文や学会等で発表することがあります。その際も個人が特定される情報は公表いたしません。

[研究へのデータ使用の取りやめ]

取りやめるのはいつでも可能です。患者さんが自分のデータを用いられたくない場合には、下記【問い合わせ窓口】までご連絡ください。取りやめの申し出を受けた場合、それ以降患者さんのデータを本研究に用いることはありません。しかし、申し出があった時点ですでに研究成果が論文などで公表されていた場合は廃棄できません。

[問い合わせ窓口]

この研究の問い合わせだけでなく、患者さんのデータが本研究に用いられているかどうかお知りになりたい場合や患者さんのデータの使用を望まれない場合などこの研究に関することは、どうぞ下記の窓口までお問い合わせください。

加古川中央市民病院 精神神経科

研究責任者名 大谷 恭平

連絡先：079-451-5500